

天滝の麓に三階建ての家並み
山と養蚕で栄えた行まいに
独特の建築文化を見る

裏路地探険

山間のノスタルジック路地／大屋町

ノスタルジックな雰囲気がい、独自の文化を感じさせる町並み。大屋町役場から西へ約4km、目の前に迫ってくるような山合いの旧道に沿って、筏の集落が東西に続きます。

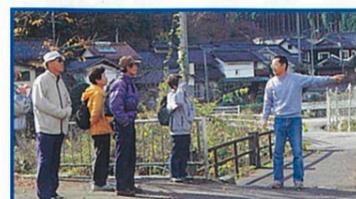
筏には3本の川が合流しています。標高1510m、ブナの原生林

に豊富な水をたたえる氷ノ山を源とする大屋川。「日本の滝百選」のひとつ、名瀑・天滝から流れ出る天谷川。さらに、藤無山から流れ出る佐治見川です。昔は豊かな水量を誇り、文字通り材木の集散地であったでしょう。筏の地名はそんなところからついたといえます。木挽職人や牛馬を引いていた往時が目に浮かぶようです。興味深いのは、筏に住む人々のおよそ8割が中尾姓ということ。混乱を避けるために昔から屋号で呼び合い、現在でも通用します。糶屋・まんじゅう屋・タイヤキ屋・わた屋は職業と関係があります。そうです。いずし屋・吉野屋・大塚屋は地名を、寺坂や谷口屋は位置をそれぞれ暗示しているようです。

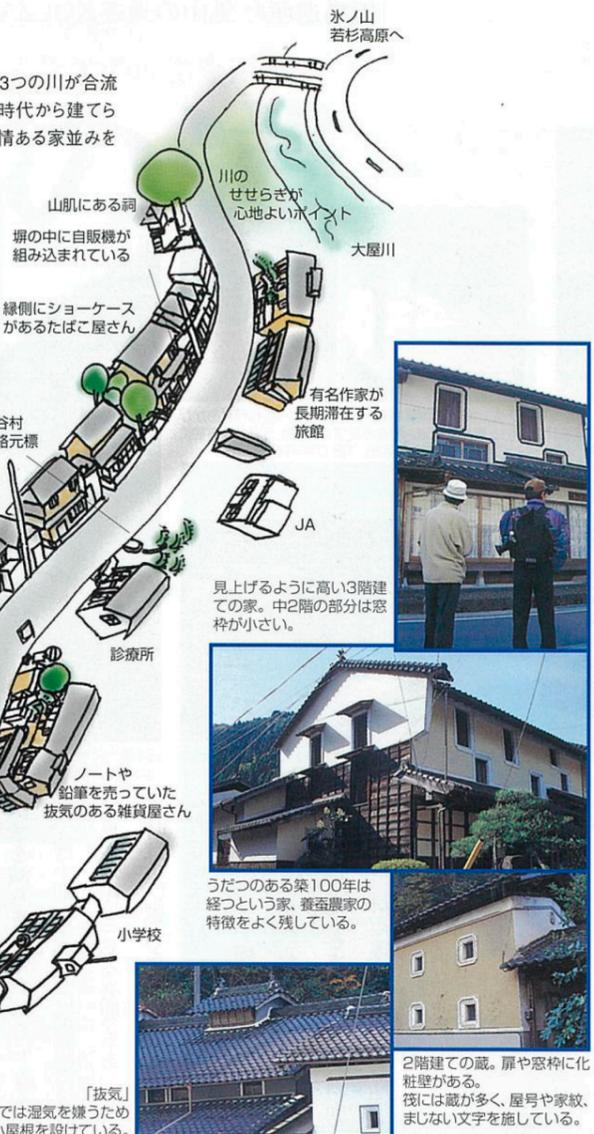
江戸時代、但馬に養蚕の技術をひろめた上垣守国は、すぐ東隣の蔵垣で生まれました。急峻な地形に少ない耕地、人々は養蚕に力を注ぎました。一見すると2階建てで中に入ると3階建になっているという特徴が養蚕農家にはあります。最盛期には家族の寝る場所をかるうじて確保し、後はすべて蚕のための部屋だったといえます。

大屋町筏

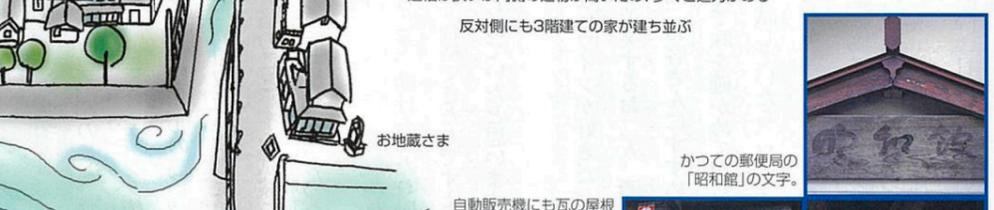
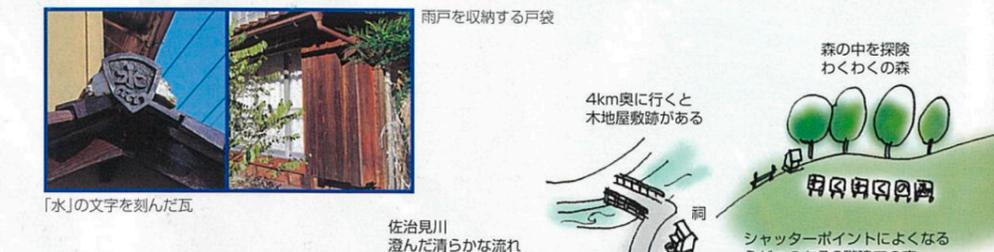
西谷地区の中心、大屋川・天谷川・佐治見川と3つの川が合流する地点にあり、山と養蚕で栄えてきた。大正時代から建てられた3階建ての養蚕農家が多く残り、独特の風情ある家並みをつくり出している。



探険隊、天谷川を渡って筏の家並みに行く。



筏ではその様式を伝える家並みが集中してあります。「抜枿」と呼ばれる換気的设计もまだ見られます。落ち着きと歴史の存在感を私たちに語りかけてくるようです。大正時代に2回の大火があり、その後、建築した家もまた絵になる不思議さがあります。木材で栄えた村だからこそ、といえるもの。例えば、柱や梁の大きさ、材質(種類)、技術面などです。窓枠や軒下の装飾的な施し、土壁や白壁にある鏝絵、恵比須や小植をあしらった瓦など、住む人の美意識、豊かさを伺い知ることができます。



「歴史は語り継ぐことが大切」と、案内をいただいた大屋町役場、町史編集室の岩見清さん。

明治になってからは、西谷地区の中心となり、小学校、JA、郵便局、診療所などが整備されました。警鐘台が今なお、その佇まいを残し、村全体を見守っています。

あくまでも自然体として静かな時の流れを醸し出しているかのよ

うな家並み。独特のそして絶妙なバランスとリズムで山間に調和しています。

協力：大屋町

裏路地探険隊員募集
4月23日(日)香住町(日市地区)探険
漁師町の港のある風景を歩きます。
*実施日の10日前までに、18ページ掲載のT2編集部へ住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、ハガキでお申し込みください。



「歴史は語り継ぐことが大切」と、案内をいただいた大屋町役場、町史編集室の岩見清さん。